

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

グローバル・パートナーズ

部局長名：

山本 洋子

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き交流協定締結大学の開拓を進める。 ・交流協定締結大学との学生短期交流プログラムを確立する。 ・大学院予備教育特別コース及び短期留学受入プログラムの拡充を図る。 ・ミャンマー留学コーディネーター配置事業の実施体制を確立する。 ・海外事務所の拡充を図る。 ・国立六大学国際連携機構を通じた大学間連携活動を強化する。 ・他の全学センターとも連携して、留学生の生活支援を強化する。 ・国際同窓会海外支部の設置を進める。 	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度には、新たに19大学・機関と大学間協定を、13大学・機関と部局間協定を締結した。部局間協定から5大学を大学間協定へ格上げして締結した。 ・短期の学生派遣として語学研修先を2校増加した。「トビタテ！留学JAPAN(国及び地域枠)」の公募増加のため、説明会及び相談会を実施し、グローバル・パートナーズのEPOK派遣教員を中心に相談・指導体制を整えた。留学促進のため、留学経験者による相談室を運営した。 ・大学院予備教育特別コースにおいて、4月期22名、10月期27名と着実に在籍者を増やし、短期留学受入プログラムにおいて、4月期8名、10月期35名と大幅に在籍者を拡大できた。大学院予備教育特別コースにおいて、10月期からは継続生用の授業科目を追加開講するなどカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図った。 ・岡山大学は吉林大学、成均館大学校とのキャンパス・アジア事業「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」を推進し、コンソーシアムの結成、ダブルディグリー制度、共通講義、教科書作成、短期留学(単位互換)制度構築、非常に高い学生モビリティを実現し(総計562名に及ぶ交流実績)、5年間にわたる同プログラムを成功裏に終了した。 ・ミャンマー留学コーディネーター配置事業については、現地留学コーディネーターとの定期的なテレビ会議や、日報・月報による日常的な情報共有・意見交換をし、現地と国内の業務進捗情報を常に管理した。国立六大学連携によるミャンマー支援委員会を2回開催し情報共有を図った。12月から、現地アシスタントを採用し、留学コーディネーターと2人体制でミャンマー人学生のリクルート活動を行った。日本留学フェアをJassoの共催者として9月29日に実施し1,000人余りの来場者を得た。現地での広報活動も強化し、リーフレットやポスターを作成し、ミャンマー全国に配布した。また、ウェブサイトやfacebookを定期的に更新し、現地学生向けに日本留学情報を提供したり、国内の関係者向けにミャンマーの教育事情等についても情報を共有した。平成28年度から留学コーディネーター交代と、新しい独自事務所の開設を決定した。 ・中国における海外拠点として、10月、上海理工大学内に上海事務所を開所した。これにより、実効的な情報提供が可能となり、短期留学受入プログラムの面接試験等、有効な活用が見込まれることとなった。10月には国立六大学国際連携機構としてオランダのライデンを訪問し、国立六大学海外共同事務所候補地であるライデンにおける事務所共用化に向けて検討した。 ・国立六大学国際連携機構は、各種のミャンマー人材育成事業を発展させて、産学が連携したオールジャパンの体制作りを進め、3月11日に「ミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォーラム」の設立総会により4省庁、11団体、26企業、24大学を含む65機関で設立し、共同代表に、三菱商事と本学が就任することとなった。 ・2月29日にキャリア開発センターと共同で、留学生のための就職ガイダンスを実施し、留学生支援ネットワークの活用方法について説明した。桑の木レジデント・アシスタント(RA)を中心に様々な交流イベントを企画し、日本の食文化やアニメーションなどに触れながら、寮生活のルールを学ぶ機会を作った。年に2回の『お掃除キャンペーン』を実施し、掃除の仕方やゴミの分別等を体験形式で指導した。毎日19:00～22:00の時間帯はRAがシフトを組んでヘルプデスクを開設し、留学生の日常生活相談にあたった。 ・平成27年度には、国際同窓会支部・拠点13支部・4拠点を設立し、年度末まで46支部・拠点に拡充した。10月18日に新たに「岡山大学スーパーグローバルデー2015」と題して国際同窓会総会、記念講演会を催し、海外支部同窓生など国内外から集まった400名を超える来場者が交流を深め、本学とのネットワーク強化を図った。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・交流協定締結大学数 ・学生短期交流プログラム数 ・大学院予備教育特別コース入学者数 ・短期留学受入プログラム(3+1)受入れ学生数 ・海外事務所数 ・大学間連携活動数 ・国際同窓会海外支部数 	

【総括記述欄】

国際学生シェアハウスの日本人入寮生について、平成28年1月に在校生を対象に公募し、書類及び面接による選考の結果、19名を第一期入寮生として決定した。今後は、4月入学の新入生(大学院正規生)及び4月以降に留学先から帰国する派遣学生を対象に追加募集を行う予定である。外国人留学生については、4月入学の交流協定校からの交換留学生を中心に約60名の入寮生を確保した。現在、ウェブサイトのほか、学部・研究科の協力を得て、在学中の外国人留学生の募集を行っている。

平成27年4月から、グローバル・パートナーズ事務室をグローバル・パートナーズ事務部(国際企画課、留学交流課)に改組して事務局体制を充実させるとともに、6月1日付けで上級グローバル・アドミニストレーター(UGA)を採用した。また、9月1日付けでスタディ・アブロード部門准教授を1名採用、大学院予備教育特別コース等担当講師1名を採用し、12月1日付けで副センター長1名を追加して教職員の組織体制を整備した。平成28年度は、さらに、教職員の組織体制を充実・強化していく予定である。